

2022年度 シラバス 高校2年生
目次

宗教	2
現代文	4
古典（文系）	6
古典（理系）	8
世界史	10
日本史	12
地理	14
数学Ⅱ（文系）	16
数学Ⅱ（理系）	18
数学B（文系）	20
数学B（理系）	22
地学基礎（文系）	24
物理基礎（文系）	26
物理基礎＋物理（理系）	28
化学（理系）	30
コミュニケーション英語Ⅱ	32
英語表現Ⅱ	34
保健体育	36
音楽Ⅰ	39
美術Ⅰ	41
家庭基礎	43
探究創造	45

1 科目のねらい

高校2年生は、学業のみならず、生徒会や部活動、体育祭、文化祭等においても、学園生を中心となって活躍し、大きく成長することが期待される学年です。宗教の授業では、リーダーのあるべき姿、心の統御の大切さ、企業家精神を学び、八正道と積極思考の大切さを腑に落とし、使命への自覚を深めていきます。

2 学習内容と学び方

これから高校3年生にかけては、宗教の学びも応用段階に入ります。以下のような流れを念頭に置いて、学習を進めて下さい。

- ① 真理知識の習得：経典の精読を中心に、基本的な仏法真理の知識を学び、要点を暗記するよう努めます。
- ② 実践による定着：日常生活（授業、部活、寮生活等）において、真理知識を行動に転化することを通じて体得します。授業で学んだ知識を、各人の経験と照らし合わせる思慧や法談等を通して、知識を智慧として定着させていくことを目指します。
- ③ アウトプット：宗教の授業のみならず、学園生活全般を通して得た智慧を自他の幸福に活かし、自ら理想の学園を創っていく姿勢で、小さな成功体験を積み重ねましょう。その過程で得た心の糧を、発表や級友への相互アドバイス等を通じてアウトプットし、智慧を共有していきましょう。

3 使用教材と授業の進め方

【教科書】経典『勇気の法』『心に目覚める』『若き日のエル・カンターレ』『メシアの法』『2023年戦略経典』

【副教材】プリント・御法話

【授業の進め方】宗教の授業は、経典の知識のみを単に伝達する場とはしません。各人の仏法真理実践を前提として、智慧の共有や、一段の成長に向けた助言の場としたいと考えていますので、主体性を持って臨んでください。

4 学習上の留意点

自ら参加する意欲を持って授業に臨んでください。授業や法談では、積極的に発言し、他の人の発言にも耳を傾け、それに対する意見も述べましょう。授業で使用する経典は、何度も繰り返し読み込み、実践を通して、説かれている教えを一行ずつでも自分自身のものとしていきましょう。

授業中によく分からないところ、もっと詳しく聞きたいところがあれば、遠慮しないで挙手して質問して下さい。自発的な仏法真理探究の姿勢は大いに歓迎します。

5 テストや評価の方法

定期考査と平常点（授業や課題への取り組み、伝道活動、利他の実践など）を総合的に評価します。

授業の計画

科目名 仏法真理 応用Ⅱ

学期	月	単元	内 容 (抜粋テーマ)	副教材・行事 ・授業展開・ テスト	着 眼 点
第 1 学 期	4	『勇気の法』第1章	・友情と勇気について	中間 考 査	・『勇気の法』からリーダーのあ るべき姿や企業家精神を学び、 使命への自覚を深めます。
	5	『勇気の法』第2章	・挫折に耐える力を		
	6	『勇気の法』第3章	・ハングリー精神を失うな		
	7	『勇気の法』第4章	・熱血日の如くあれ		
	7	『勇気の法』第5章 『心に目覚める』1～6	・真実の人生を生き切れ ・AI時代を生き抜く「悟 性」の磨き方(1)		
第 2 学 期	8	『心に目覚める』7～11	・AI時代を生き抜く「悟 性」の磨き方(2)	中間 考 査 精 舎 研 修 期 末 考 査	・『若き日のエル・カンターレ』 から、自助努力と積極思考の大 切さを学び、主のお姿を通して 深く腑に落としていきます。 ・御講演「仏陀再誕」を魂で拝聴 し、時代認識と使命への自覚を 深めます。
	9	『若き日のエル・カンターレ』 第1章	・平凡からの出発		
	10	第3章	・多様な価値観		
	11	第6章	・非凡なる愛の高みへ		
	12	御講演「仏陀再誕」 (初期重要講演集⑥「悟りに到る 道」に収録)			
第 3 学 期	1	2023年度戦略経典	・第1章～第2章	学 年 末 考 査	・戦略経典でその年のテーマ、仏 弟子の使命を理解していく。
	2				
	3				

国語	現代文
----	-----

高校2年生 対象

文系：週3時間 理系：週2時間

担当：工藤曜平

1 科目のねらい

現代文の授業を通し、精確な「読み」と「解き」の力を養います。

大学に入ってからあとは文献講読や論文作成に際し、本を読む力「読解力」が様々な学問の力になります。

社会人以降も、いろいろな情報を消化・分析する力になるので、現代文は「一生の武器」と言えます。

総合的な国語力の中心となるのは

- ① 文章を筋道立てて読みとる 読解力
- ② それを正しく明確な日本語によって表す 表現力

の二つであり、近年の共通テストや私立大学は①の能力を、国公立大学は②の能力を重視する傾向があります。

授業では教科書の文章を中心に、板書・問題演習を通し「読解力」を磨きます。また、副教材や模試の記述問題に取り組むことで構成要素を意識し「表現力」を高めます。(自己添削の能力も同時に鍛えます)

真の教養を涵養(かんよう)するために、課題文を越えた様々な話も交えますが、それを単なる雑談と捉えずに、テーマ理解の材料としてしっかり受け取って授業に臨んで下さい。

2 学習内容と学び方

文理共通週2回の授業内容として知識問題の小テスト、教科書精読を中心に進めます。文章を読みながら、意味段落(形式段落)に分け、文章の展開・構成を理解する全体観を養います。また、教科書の文章からマーク式問題や記述問題を出題し、演習を行います。模試の復習・解説を授業で行うこともあります。「得点力」を意識した、実践的な読解の機会を大切にして下さい。(文系クラスは演習中心の授業を+週1回 予定。)

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「国語総合 改訂版 現代文編」大修館書店(※ 購入・配付 済)

副教材：「入試漢字マスター1800+」河合出版(※ 購入・配付 済)

「読解を深める現代文単語(評論・小説)」(※ 購入・配付 済)

「入試現代文のサクセス 基本編」河合出版(※ 購入・配付 済)

4 学習上の留意点

現代文の学習の難点は、成績の向上が他科目に比べ測定しづらい点にあります。また、「現代文はセンス(才能)」と思われがちであるため、いくら勉強しても苦手意識が拭えないと悩む生徒も一定数います。

現代文で点数が思うようにとれない場合、大きく三つの原因が考えられます。

- ① 語彙や国語運用能力が乏しい
- ② テーマ理解(背景知識)が不十分
- ③ 文章の全体観が掴めていない

まず各自で行うべきことは、上記の自己分析と対策です。授業内では模試分析試や実力テストを定期的に行い、点数だけでなく偏差値を測定し、各自の成績推移を上半期と下半期に確認します。一回一回のテストを大切にしてください。

5 テストや評価の方法

定期考査の点数と平常点(授業態度、課題提出等)を総合評価します。※模試は成績評価に含みません。

評価基準：定期テスト70% 課題提出10% 平常点(小テスト10% 授業態度10%)

授 業 の 計 画

科目名：現代文

学 期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	【Ⅰ】 評論（一） 小説（一）	「ミロのヴィーナス」 「対話の精神」 「山月記」	中 間 考 査 期 末 考 査	【評論】 本文を要約して、筆者の主張を把握する。 文章題のテーマ、背景知識、語彙を理解する。 【小説】 登場人物の心情の変化を理解する。 小説文章の修辞表現などに着眼する。 【問題集】 時間内に正確に解く力を養成する。
	5	評論（二） 小説（二）	「豊かさとながり」 「家族化するペット」 「山椒魚」		
	6				
	7				
第 2 学 期	8	評論（三）	「食べ物を『はかる』」 「科学の現在を問う」 「こころ」 「生命情報・社会情報・機械情報」 「分かち合う社会」 「コミュニティから見た日本」 『『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ』 「実体の美と状況の美」 「赤い繭」「檸檬」	中 間 考 査 期 末 考 査	【評論】 本文を要約して、筆者の主張を把握する。 文章題のテーマ、背景知識、語彙を理解する。 【小説】 登場人物の心情の変化を理解する。 小説文章の修辞表現などに着眼する。 【問題集】 時間内に正確に解く力を養成する。
	9	小説（三）			
		評論（四）			
		評論（五）			
	1	評論（六）			
	0	【Ⅱ】 評論（一二） 小説（一二）			
1					
1					
1					
2					
第 3 学 期	1	小説（三） 評論（三四） 評論（五六）	「舞姫」 「政治を支える心構え」 「人を指す言葉」 「生物多様性の恩恵」 「日本文化の三つの時間」	学 年 末 考 査	【評論】 本文を要約して、筆者の主張を把握する。 文章題のテーマ、背景知識、語彙を理解する。 【小説】 登場人物の心情の変化を理解する。 小説文章の修辞表現などに着眼する。 【問題集】 時間内に正確に解く力を養成する。
	2				
	3				

国語	古典
----	----

高校2年生文系対象
週3時間
担当：岡崎瑞恵、原田香澄

1 各教科のねらい

国語は全ての学問、数学や論理的な文章、社会科の資料などを読み解く基になります。また、世界のあり方、人生そのものを探究する基礎力を形成します。

世界に貢献できるリーダーと称される人々は、皆、自国の歴史に誇りを持っています。自国の古典がいかに尊いものか、世界で活躍すればするほど、身にしみて悟るはずです。

古典の理解をとおして多様な価値観を学び、幅広い人間性やコミュニケーション力を養うと同時に、よりよい世界を創っていくための力、他者に貢献するための力を培います。

2 学習内容と学び方

高校1年生と同様、2年生においても ①語彙・語法の理解 ②当時の常識や修辞法の理解 ③文学的背景の理解 という三系列の学習が続きます。

【読解演習の復習の仕方】①現代語訳（漢文は書き下し文も）を読む（漢文は音読）。採点后、誤答を中心に解説を読み込む。②翌日、本文を読む（漢文は音読）。訳が頭に浮かび、誤答の傍線部では解説の内容が思い出せれば合格。できていない部分に印をつけておき、現代語訳、解説をもう一度読む。③翌日、再チャレンジ。以上のような取り組みで、理解度の高い本文を増やしていきます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「古典B 古文編」大修館
「古典B 漢文編」大修館

副教材：「サケスNo.1 古文重要単語集」
「新しい古典文法」 桐原書店
「漢文必携」桐原書店
「古典速読トレーニング」入門 基礎 数研出版
「漢文句法演習ドリル」旺文社
「新全訳古語辞典」大修館

1年時に定着させた基礎力を土台にして、応用力を養います。また、各考査までに10回程度の小テストを実施します（授業の初め）。「重要単語集」「漢文句法演習ドリル」「新しい古典文法」からの出題です。語彙・文法力の定着のためにも、充分準備をして取り組むことが大切です。

4 学習上の留意点

古典の学習は、「知識の積み上げ定着と読解演習、正しい復習の繰り返し」これをコツコツと続けていくことで完成します。応用の効かない丸暗記だけでは、問題を解く力にはつながりません。毎回の小テストも文章理解のための暗記であることを忘れず、各々の項目の本質を理解し、定着を確かなものにしていきましょう。

5 評価の視点・テスト・課題など

定期考査・課題考査・模擬試験・小テストの可否・課題の取り組みと提出状況。

授 業 の 計 画

科目名：古典

学 期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	古文文法 漢文句法 読解	『古文編』『漢文編』 ・助動詞 ・抑揚 累加 願望 比況	中間 考査	・古文助動詞知識の仕上げ。 ・漢文句法の各条件の理解。 ・重要語に注意し、本文を読解する。 ・重要句法に注意し、本文を読解する。
	5				
	6	古文文法 漢文句法 読解	・竹取物語 ・墨子（兼相愛） ・助動詞識別 ・頻出句法の復習 ・竹取物語 ・漢詩	期末 考査	・古文助動詞問題の練習を重ねる。 ・入試頻出事項を中心に学習。 ・登場人物の立場や行動を読み取る。 ・繰り返し音読し、漢詩のきまりを理解する。
7					
第 2 学 期	8	古文文法 漢文句法 読解	・敬語 ・頻出句法の復習 ・竹取物語 ・漢詩	中間 考査	・敬語知識を理解する。 ・入試頻出事項を中心に学習。 ・重要語句に注目し、話の概要を把握する。 ・繰り返し音読し、漢詩のきまりを理解する。
	9				
	10	古文文法 漢文句法 読解	・敬語 ・頻出句法の復習 ・源氏物語 ・方丈記 ・大鏡 ・史記（項王の最期）	期末 考査	・敬語知識の理解を確実にする。 ・入試頻出事項を中心に学習。 ・敬語知識を用い、人物判定等を行う ・身分制度、風習など古文常識の基礎を 本文読解に用いる。 ・重要語、句法などに注意し、本文を丁寧 に読み解く。
	11				
12					
第 3 学 期	1	古文文法 漢文句法 読解	・和歌の修辞 ・頻出句法の復習 ・古今和歌集（仮名序） ・伊勢物語（初冠） ・日本外史 （所争在弓箭）	学 年 末 考 査	・和歌の修辞法を理解する。 ・入試頻出事項を中心に学習。 ・和歌の修辞法の理解を深める。 ・登場人物の心情と和歌との関係を理解 する。 ・様々な知識を、本文読解に生かす読み 方の学習。
	2				
	3				

国語	古典
----	----

高校2年生理科対象
週2時間
担当：原田香澄

1 各教科のねらい

国語は全ての学問、数学や論理的な文章、社会科の資料などを読み解く基になります。また、世界のあり方、人生そのものを探究する基礎力を形成します。

世界に貢献できるリーダーと称される人々は、皆、自国の歴史に誇りを持っています。自国の古典がいかに尊いものか、世界で活躍すればするほど、身にしみて悟るはずです。

古典の理解をとおして多様な価値観を学び、幅広い人間性やコミュニケーション力を養うと同時に、よりよい世界を創っていくための力、他者に貢献するための力を培います。

2 学習内容と学び方

高校1年生と同様、2年生においても ①語彙・語法の理解 ②当時の常識や修辞法の理解 ③文学的背景の理解 という三系列の学習が続きます。教科書を使い、高校1年時に学んだ知識をもとに品詞分解を行い、修辞法の理解や知識を深めます。また、口語訳も同時に行うことで、主語を掴んだり、敬語の使い分けを理解したりしていきます。

勉強の仕方としては①教科書本文をノートに書き、品詞分解、口語訳を行う。②授業時に確認を行い、学ぶべき語法・語彙等を理解する。といった形で、予習型の授業を進めます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「古典B 古文編」大修館 「古典B 漢文編」大修館

副教材：「サケスNo.1 古文重要単語集」

「新しい古典文法 四訂版」桐原書店

「漢文必携」桐原書店

「古典速読トレーニング」入門 基礎 数研出版

「漢文句法演習ドリル」旺文社

「新全訳古語辞典」大修館

1年時に定着させた基礎力を土台にして、応用力を養います。また、各考査までに10回程度の小テストを実施します（授業の初め）。「重要単語集」「漢文句法演習ドリル」「新しい古典文法」からの出題です。語彙・文法力の定着のためにも、充分準備をして取り組むことが大切です。

4 学習上の留意点

古典の学習は、「知識の積み上げ定着と読解演習、正しい復習の繰り返し」これをコツコツと続けていくことで完成します。応用の効かない丸暗記だけでは、問題を解く力にはつながりません。毎回の小テストも文章理解のための暗記であることを忘れず、各々の項目の本質を理解し、定着を確かなものにしていきましょう。

5 評価の視点・テスト・課題など

定期考査・課題考査・模擬試験・小テストの可否・課題の取り組みと提出状況。

授 業 の 計 画

科目名：古典（理系）

学 期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点		
第 1 学 期	4	古文文法 漢文句法	『古文編』 『漢文編』 ・助動詞 ・抑揚 累加 願望 比況 ・竹取物語 ・墨子（兼相愛） ・助動詞識別 ・竹取物語 ・漢詩 ・敬語	中間 考 査	・古文用言・助動詞知識の復習 ・漢文句法の各条件の理解		
	5	読解					
	6	古文文法 漢文句法				期末 考 査	・敬語知識を理解する ・重要語句・文法を確認しながら本文を読解する
	7	読解					
第 2 学 期	8	古文文法 漢文句法 読解	・敬語 ・竹取物語 ・漢詩	中間 考 査	・敬語知識の理解を確実にする ・漢詩の決まりを確認しながら情景や作者の気持ち、時代背景等を理解する		
	9						
	10	古文文法 漢文句法 読解	・句法・語句・文法の復習 ・源氏物語 ・史記（項王の最期） ・和歌の修辞	期末 考 査	・本文読解の際に敬語知識を用い、人物判定等を行う ・様々な知識を、本文読解に生かす読み方の学習 ・和歌の修辞法を理解する		
	11						
12							
第 3 学 期	1	古文文法 漢文句法 読解	・句法・語句・文法の復習 ・古今和歌集（仮名序） ・源氏物語 ・方丈記 ・日本外史（所争在弓箭）	学 年 末 考 査	・和歌の修辞法を理解する ・身分制度風習など古文常識の基礎の理解 ・入試頻出事項を中心に学習 ・様々な知識を、本文読解に生かす読み方の学習		
	2						
	3						

地歴	世界史
----	-----

高校2年生文系対象

週3時間

担当：桜沢正顕

1 科目のねらい

世界の歴史に対する関心を高め、異なる文化・政治制度をもった世界の人々と共生するためには、私たちはどのような点に留意すべきかということを考察する機会とする。

人類の誕生から現代までの世界の歴史を理解し、多角的かつ柔軟な見方で広い視野から世界の動きをとらえ、21世紀の世界をいかに創造していくべきかという問題を考える。

難関大学の入学試験において得点源となりうる実力を、確実に身につける。

2 学習内容と学び方

教科書と図説、プリントを使用して授業を展開します。基本的に、授業で使用するプリントが難関大学の入学試験に対応していますので、授業がそのまま受験勉強になります。定期テストで高得点を取れば、入学試験でも高得点が取れます。

また、積極的に参加することで、さらに理解を深めるため、発問も多めに実施していきます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「詳説世界史B」山川出版

副教材：「ニューステージ詳覧」浜島書店

副教材：「ゼミナール世界史」浜島書店

授業は、出来事や語句がどれだけ印象に残るかが勝負です。そのために、映画や様々な映像、体験談などを駆使して、世界史を楽しく、心から好きになるような授業を行います。

4 学習上の留意点

世界史で高い得点を取る秘訣は、①「語句を覚える」②「問題集(論述含む)を解く」③「①②を繰り返す」ということにつきます。ただし、漠然と暗記するのは大変なので、④「時代の流れをつかみ、世界的視野で事項を掴む」ことが大事です。そのための1番の方法は、授業をしっかりと聞くことです。

授業は、国公立大の論述試験にも難関私大の細かい語句にも対応しています。主体的に参加し、また数多くの問題演習に取り組みましょう。

5 テスト・課題と評価など

定期テストの点数と、平常点(授業への取り組み、小テストへの取り組み、課題の提出状況など)を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：世界史

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	第 5 章 イスラーム世界 の形成と発展	イスラーム帝国の成立発展 アジア・アフリカのイスラーム 化	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・世界3大宗教の1つであるイスラーム教は、どのようにして成立し、どのようにして世界宗教となったのか把握する。 ・ローマ帝国滅亡後のヨーロッパにおけるキリスト教の発展の課程を理解するとともに、中世キリスト教会のあり方を考察する。 ・現在、世界各地で文明の衝突が起きているが、歴史上の様々な交流、衝突の流れを、世界的な視野に立って探究する。 ・近代アジアに出現する諸帝国繁栄の要因と、周辺地域との関わり、帝国相互の関わりを学ぶ。
	5	第 6 章 ヨーロッパ世界 の形成と発展	西ヨーロッパ世界の成立 東ヨーロッパ世界の成立 西ヨーロッパ世界の変容		
	6	第 7 章 諸地域世界の交 流	陸と海のネットワーク 海の道の発展	期 末 考 査	
	7	第 8 章 アジア諸地域の 繁栄	明・清と隣接諸地域 トルコ・イラン・インド		
第 2 学 期	8	第 9 章	ヨーロッパ世界の拡大	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・この時代に古典古代の復活がなされた歴史的背景と意義、後世への影響を学ぶ。 ・ヨーロッパが拡大する世界史的意義を掘む。 ・ルターやカルヴァンなどの活動を通して、キリスト教改革の真意を理解する。 ・主権国家の形成、発展、その後の市民革命の歴史を通して、理想国家のあるべき姿を探究する。 ・アメリカ合衆国の成立、発展の歴史を学び、現代世界で最も影響力の強い国がどのようにして形成されたのかを知る。
	9	近代ヨーロッパ の成立	ルネサンス 宗教改革 主権国家体制の形成		
	10	第10章 ヨーロッパ主権 国家体制の展開	重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出 17～18世紀のヨーロッパ文化	期 末 考 査	
	11	第11章 欧米における近 代社会の成長	産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン		
12	第12章 欧米における近代 国民国家の発展	ウィーン体制 ヨーロッパの再編			
第 3 学 期	1		アメリカ合衆国の発展	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸地域がどのように欧米に植民地化されていくのか。政治のみならず、指導者や民衆の心のあり方を探究する。
	2	第13章 アジア諸地域の 動揺	19世紀欧米の文化 オスマン帝国支配の動揺 インド・東南アジア 東アジアの激動		
	3				

1 科目のねらい

一年間で、日本史 A の範囲つまり、近現代を学習します。開国から戦後史を学習します。高校日本史は中学の歴史的分野と比べると内容も深く、憶えなければならない事象もかなり多くなります。しかし、社会科のねらいである問題解決学習の本質は同じです。一つ一つの歴史事象が現在とどう関わっているのか、その歴史的意義は何か。また、国際社会から見た日本文化の形成及びその特色は現代文化とどうかかわっているのかなどについて学びます。

2 学習内容と学び方

問題演習による事実認識と「正しさ」の基準に照らした「その時の選択」検証を中心に進めます。学習問題設定による問題解決学習の場をより多く取り入れ、考える時間を十分取って、他の人の意見を聞いたり、自分の意見を積極的に発表し合ったりして討論し、論述を的確に組み立てる授業に重点をおきます。

歴史の流れは必ず因果の理法が働きます。その因・縁・果の法則を見据え、歴史事象における「その時の選択」を検証していきます。そして人々が幸福に暮らせる社会の在り方はどうあるべきであったかなどを探求していきます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「最新日本史 B」明成社

詳説日本史図録、資料日本史、一問一答式問題集を副教材とします。VTR編集教材、パソコンによるプレゼン方法を駆使しながら、楽しく興味を持てる授業を目指します。その中で特に課題発見に重点を置いて、歴史の中の因果応報を発見し、課題設定していく過程を大切に授業を進めます。

4 学習上の留意点

まず教科書を精読・反読し、重要事項にラインマーカーを引きます。そして授業中に問題演習を解答しながら事実認識を押さえ、プレゼン教材やビデオ教材などを駆使して歴史的意義を追求します。時折、自らプレゼン教材を作成してもらい、ミニティーチャーとなって授業の一部を体験します。最後は論述です。難関校向けに論述問題を解きます。

さらに單元ごとの小テストを実施します。基礎・基本あつての応用力ですので、一問ももらさず確実に完全正解を目指してください。

5 評価の視点・テスト・課題など

定期テスト、小テスト及び授業中に積極的に参加したかなど、総合的に評価します。

授 業 の 計 画

科目名：日本史

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	第 10～13 章 幕末・開国 近代国家の成立 (明治時代)	開国と幕末の動乱 明治維新 富国強兵 立憲国家の成立 日清戦争 日露戦争 日露戦争後の国際関係 近代産業の発展	実力テスト 中間考査 期末考査	初めに、近現代史を履修する。 科目としては、日本史 A の範囲である。 意図としては、2年次の選択者に最も重要な近現代史を学んでおいて欲しいため。 まず、近代国家建設の志と実行。 明治時代を学ぶ。
	5				
	6				
	7				
第 2 学 期	8	第 14・15・16 章 大正時代 昭和史 (戦前・戦中・戦後史)	第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 恐慌の時代 第二次世界大戦 大東亜戦争と終戦	実力テスト 中間考査 期末考査	3年次に履修しない生徒も、近現代史を先に始めることにより大切な教養を蓄積できるため。 テーマとして、自分の国を誇りある国として語れる人材を養成する。 受験にも対応できる知識もつけていく。 大正・昭和史を学び 自虐史観を脱却することをめざす。
	9				
	10				
	11				
第 3 学 期	1	第 1・2 章 古代史 古代国家の形成 ～ 律令国家	日本文化のはじまり 農耕社会の成立 統一国家の成立 古代文化の形成 飛鳥の政治と文化 大化の改新 律令体制の成立 平城京 天平文化	学年末考査	古代史を古事記・日本書紀の神代の時代から奈良時代までの学習を終える。 3年次に、古代史の平安時代 中世史の鎌倉・室町(戦国時代含む) 近世史 信長～江戸幕府の後期をやり、 その後、受験勉強として、センター演習へすすむ予定。 本年より、教科書を変えて、自虐史観からの脱却をはかる予定。
	2				
	3				

<h1>地歴</h1>	<h1>地理</h1>
-------------	-------------

高校2年生対象
週4時間（文系）、週2時間（理系）
担当：上岡美和

1 科目のねらい

現代世界の地理的現状を、自然地理・人文地理を基軸に、系統地理を先に、そのあと主要国の地誌を学ぶ。地球全体の地形・気候・産業・人口・都市村落・民族・宗教・国家群・民族問題などを学び、各地域の自然環境をふまえ、世界経済の現代的様相を知り、主要各国の文化や政治、宗教などを学ぶ。世界の一体化が進む中、それぞれの地域で生じている諸問題を、世界の幸福化という視点から地理学的アプローチで考える。

2 学習内容と学び方

教科書・地図帳・データブック・資料集を活用し、共通テスト・東大・京大・北大・阪大・筑波大などの過去問を下敷きにしつつ、時事的テーマにも適宜ふれ、授業を展開する。高校3年時から全体には演習授業を始めるが、東大・京大・その他難関大学志望の生徒については論述演習が必要となる。どの問題でもその出題意図が理解され、解答方法に習熟するための個別添削指導を行う。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「新編詳解地理B」二宮書店 「現代地図帳」二宮書店
「新編地理資料集」とうほう 「データブック」二宮書店 白地図
思考力・理解力を高めるために、演習添削、グループ学習、発表なども取り入れる。

4 学習上の留意点

教科書本文に書かれている内容は、十分に理解し記憶することを要する。ただし、それ以外に必要とされている事柄もある。たとえば、1億人以上の国名と人口数、主要な緯線・経線約20本、その他主要国(ドイツ・フランス・イギリス・イタリア・シンガポール・オーストラリア・カナダなど)の人口や国土面積の概数は基本知識である。どこにも書かれていないが、出題において前提とされている「基礎知識」を明確に提示するので、しっかりマスターしてほしい。理系は文系と進度は同じだが、工夫して授業をすすめる。

5 テスト・課題と評価など

定期テスト・小テスト・平常点を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：地理

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	第Ⅰ編	地球・時差	中間 考 査	気候 ケッペンの気候区分を学ぶ。気候を決定する指標を植生に求め、さらに植生を決定する要素を気温と降水量に限定して区分を行った。「分ける」こと、「絞り込むこと」で認識の次元が高度化するひとつの例である。また、環境決定論と環境可能論が近代において対立する認識論であったが、人類はどのように超えようとしているのか、また制約があるのか考える材料としたい。
	5		地図の歴史・世界地図 地形図演習 プレートテクトニクス		
	6		世界の大地形 日本の地形・火山 風化・河川が作る地形	期 末 考 査	
	7		海・氷河が作る地形 サンゴ・石灰岩台地 気候要素因子 ケッペンの気候区分		
第 2 学 期	8	第Ⅱ編	日本の気候区分	実 力 テ ス ト	産業 ローマ帝国下の二圃式農法から、ドミニコ教会の三圃式農法の普及、農業革命から自由貿易を採用して以降のヨーロッパ農業の変容の歴史をたどる。さらに新大陸における企業的農牧業や自給的農業形態を学ぶ。大航海時代以来、重金主義・重商主義・工業化したイギリスの覇権獲得と平行して、世界市場が形成され、それぞれの国が近代化・工業化をめざし、1割の先進国と9割の途上国というピラミッドとなった。 1990年代以降BRICsが、規制緩和・資本自由化とともに先進国資本の流入が生じ、グローバリゼーションが進んだ。この巨大人口国家の経済発展は原油・鉄鉱石・コーン・大豆など資源・穀物の高騰と労働集約的工業生産物の価格低下という新しい局面・乱気流の時代・大競争の時代・第二の価格革命など未来社会に向かってさまざまなカオス状況が現出している。この現状をふまえた各地域での産業のあり方を学ぶ。
	9		エルニーニョ現象 農業地域形成条件		
	10		世界の農業地域 世界の農業各論	中 間 考 査	
	11		日本の農業 林業・水産業 エネルギー消費量 石炭・石油		
	12		天然ガス・原子力 クリーンエネルギー 鉄鉱石・非鉄金属		
第 3 学 期	1	第Ⅲ編	工業各論	学 年 末 考 査	民族 民族概念は言語・宗教・生活慣習で区分されている。気候に対応した民族衣装・住居・農業などがテーマである。世界宗教としての、キリスト教圏・仏教圏・イスラム教圏・ヒンドゥー教圏・儒教圏などの分布と言語分布の関係や、少数民族・先住民の名称や分布を学ぶ。オーストラリア、カナダで採用されている多文化主義政策の限界を考える。
	2		世界・日本の工業 世界貿易の特徴 グローバル化		
	3		人口・食糧問題 世界の衣食住 民族・領土問題		

数学	数学Ⅱ
----	-----

高校2年生 文系対象

週3時間

担当: 江崎功一、岩永雄介、松村有起、小椋一徳

1. この授業のねらい

高校2年次では、1年次に学んだ数学Ⅰ、数学Aに引き続いてさらに高校数学の基本事項を学びます。具体的には、高次方程式、三角関数、対数、指数、微分、積分といった数学の新しい手法を習得します。次々と数学の新しい概念、考え方が登場しますが、それらを学ぶ中で、物事の本質を追究する態度を身につけてゆきましょう。そのためにも、問題集や参考書を利用した反復練習は欠かせません。このようにして数学に取り組むことで、ものごとを筋道立てて考える能力（理性）が、知らず知らずのうちに培われます。

2. 学習内容と学び方

クラスにより違いはありますが、基本的には教科書に沿って授業を進めてゆきます。指数と対数関数、三角関数など新しい関数の導入や、微分積分法など、広大な数学な世界を学ぶための、大切な手法を身につけてゆきます。

3. 使用教材と授業の進め方

教科書：『高等学校 数学Ⅱ』（数研出版）

問題集：『4step 数Ⅱ+B』（数研出版）

参考書：クラスにより、違ったものを採用します。

教科書や参考書を利用して授業の予習をし、疑問点をはっきりさせて授業に臨んで下さい。また、授業で出される宿題には、しっかりと取り組んでください。

4. 学習上の留意点

数学の学習では、次の5つのアプローチが大切だと言われています。参考にして下さい。

- ①「手を動かす」…問題の要点を書き並べてみたり、図を書いてみたり、と、まずは手を動かしてみることが大事です。
- ②「毎日解く」…数学においても蓄積の効果は大きいものです。問題を毎日解くことで、確実性とスピード、センスを養うことができます。
- ③「問題の意味は何か」…要は何を求めればいいのか。問題の意味は何か、ひと言で説明できなくてはなりません。
- ④「解けるためには何が分かればいいのか」…解決のために、逆算して「何が分かれば問題が解けるのか」を考えて問題を解きましょう。
- ⑤「説得力ある説明ができるか」…解答を作るに際しては、単に「答えが出ればよい」のではなく、論理的に隙のない答案をつくる訓練をしましょう。

5. テストや評価の方法

定期テストと、平常点（授業への取り組み、確認テスト、宿題）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 : 数学Ⅱ (文系)

学 期	月	単 元	考 査	内 容
第 1 学 期	4	第 1 章 式と証明	中 間 考 査	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。
	5	第 2 章 複素数と方程式		方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
	6 7	第 3 章 図形と方程式	期 末 考 査	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
第 2 学 期	8 9	第 4 章 三角関数	中 間 考 査	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	11 12		期 末 考 査	指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
第 3 学 期	1 2 3	第 6 章 微分法と積分法 入試基礎演習	学 年 末 考 査	微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 数ⅠA・ⅡBの入試基礎レベル

注 この表は、あくまでの目安です。

クラスの状況により進度は、遅くなる場合や、速くなる場合があります。

詳しく知りたい人は、各担当の先生に訊ねてください。

中入生は、早めに進んでいます。(数Ⅱ終了後、数ⅠⅡA Bの復習に入ります。)

数学	数学Ⅱ
----	-----

高校2年生 理系対象

週4時間

担当：戸波祐二、三浦紘幹

1. この授業のねらい

高校2年次では、1年次に学んだ数学Ⅰ、数学Aに引き続いてさらに高校数学の基本事項を学びます。具体的には、高次方程式、三角関数、対数、指数、微分、積分といった数学の新しい手法を習得します。次々と数学の新しい概念、考え方が登場しますが、それらを学ぶ中で、物事の本質を追究する態度を身につけてゆきましょう。そのためにも、問題集や参考書を利用しての反復練習は欠かせません。このようにして数学に取り組むことで、ものごとを筋道立てて考える能力（理性）が、知らず知らずのうちに培われます。

2. 学習内容と学び方

クラスにより違いはありますが、基本的には教科書に沿って授業を進めてゆきます。指数と対数関数、三角関数など新しい関数の導入や、微分積分法など、広大な数学な世界を学ぶための、大切な手法を身につけてゆきます。

3. 使用教材と授業の進め方

教科書：『高等学校 数学Ⅱ』、『高等学校 数学Ⅲ』（数研出版）

問題集：『4step 数Ⅱ+B』、『4step 数Ⅲ』（数研出版）

参考書：クラスにより、違ったものを採用します。

教科書や参考書を利用して授業の予習をし、疑問点をはっきりさせて授業に臨んで下さい。また、授業で出される宿題には、しっかりと取り組んでください。

4. 学習上の留意点

数学の学習では、次の5つのアプローチが大切だと言われています。参考にして下さい。

- ①「手を動かす」…問題の要点を書き並べてみたり、図を書いてみたり、と、まずは手を動かしてみることが大切です。
- ②「毎日解く」…数学においても蓄積の効果は大きいものです。問題を毎日解くことで、確実性とスピード、センスを養うことができます。
- ③「問題の意味は何か」…要は何を求めればいいのか。問題の意味は何か、ひと言で説明できなくてはなりません。
- ④「解けるためには何が分かればいいのか」…解決のために、逆算して「何が分かれば問題が解けるのか」を考えて問題を解きましょう。
- ⑤「説得力ある説明ができるか」…解答を作るに際しては、単に「答えが出ればよい」のではなく、論理的に隙のない答案をつくる訓練をしましょう。

5. テストや評価の方法

定期テストと、平常点（授業への取り組み、確認テスト、宿題）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：数学Ⅱ（理系）

学期	月	単 元	考 査	内 容
第 1 学 期	4	第1章 式と証明	中 間 考 査	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。
	5	第2章 複素数と方程式		方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
	6 7	第3章 図形と方程式	期 末 考 査	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
第 2 学 期	8 9	第4章 三角関数	中 間 考 査	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	10 11 12		期 末 考 査	指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
第 3 学 期	1 2 3	第6章 微分法と積分法	学 年 末 考 査	微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
		数Ⅲ		数Ⅱが終了次第、数Ⅲの学習に入ります。

注 この表は、あくまでの目安です。

クラスの状況により進度は、遅くなる場合や、速くなる場合があります。

詳しく知りたい人は、各担当の先生に訊ねてください。

中入生は、早めに進んでいます。（数Ⅲの内容を参考にしてください。）

数学	数学 B
----	------

高校2年生 文系対象

週2時間

担当：江崎功一、三浦紘幹、松村有起、細川光

1. この授業のねらい

高校2年次では、1年次に学んだ数学I、数学Aに引き続いてさらに高校数学の基本事項を学びます。まず初めにベクトル、続いて数列を学びます。ベクトルは大きさと向きを同時に持つ、数学の新しい量で、高校段階では、図形問題を解くための優れたツールといえます。このように、次々と登場する数学の新しい概念、考え方を学ぶ中で、可能な限り本質を追究する態度を身につけてください。そのためにも、特に、徹底的な反復による鍛錬は欠かせません。こうした数学の学び方をする中で、筋道立てて合理的に考える能力（理性）が、知らず知らずのうちに培われます。

2. 学習内容と学び方

クラスにより違いはありますが、基本的には教科書に沿って授業を進めてゆきます。ベクトル、数列など、広大な数学な世界を学ぶための、大切な手法を身につけてゆきます。

3. 使用教材と授業の進め方

教科書：『高等学校 数学 B』（数研出版）

問題集：『4step 数Ⅱ+B』（数研出版）

参考書：クラスにより、違ったものを採用します。

教科書や参考書を利用して授業の予習をし、疑問点をはっきりさせて授業に臨んで下さい。また、授業で出される宿題には、しっかりと取り組んでください。

4. 学習上の留意点

数学の学習では、次の5つのアプローチが大切だと言われています。参考にして下さい。

- ①「手を動かす」…問題の要点を書き並べてみたり、図を書いてみたり、と、まずは手を動かしてみることが大事です。
- ②「毎日解く」…数学においても蓄積の効果は大きいものです。問題を毎日解くことで、確実性とスピード、センスを養うことができます。
- ③「問題の意味は何か」…要は何を求めればいいのか。問題の意味は何か、ひと言で説明できなくてはなりません。
- ④「解けるためには何が分かればいいのか」…解決のために、逆算して「何が分かれば問題が解けるのか」を考えて問題を解きましょう。
- ⑤「説得力ある説明ができるか」…解答を作るに際しては、単に「答えが出ればよい」のではなく、論理的に隙のない答案をつくる訓練をしましょう。

5. テストや評価の方法

定期テストと、平常点（授業への取り組み、確認テスト、宿題）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 : 数学B (文系)

学 期	月	単 元	考 査	内 容
第 1 学 期	4	第1章 平面上のベクトル	中間 考査	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	5			
	6	期末 考査		
	7			
第 2 学 期	8	第2章 空間のベクトル	中間 考査	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	9			
	10	期末 考査		
	11			
12	第3章 数列	簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
第 3 学 期	1 2 3	入試基礎演習	学 年 末 考 査	数ⅠA・ⅡBの入試基礎レベル

注 この表は、あくまでも目安です。
 クラスの状況により進度は、遅くなる場合や、速くなる場合があります。
 詳しく知りたい人は、各担当の先生に訊ねてください。
 中入生は、早めに進んでいます。(数B終了後、数ⅠⅡABの復習に入ります。)

数学	数学 B
----	------

高校2年生 理系対象

週2時間

担当：戸波祐二、細川光

1. この授業のねらい

高校2年次では、1年次に学んだ数学I、数学Aに引き続いてさらに高校数学の基本事項を学びます。まず初めにベクトル、続いて数列を学びます。ベクトルは大きさと向きを同時に持つ、数学の新しい量で、高校段階では、図形問題を解くための優れたツールといえます。このように、次々と登場する数学の新しい概念、考え方を学ぶ中で、可能な限り本質を追究する態度を身につけてください。そのためにも、特に、徹底的な反復による鍛錬は欠かせません。こうした数学の学び方をする中で、筋道立てて合理的に考える能力（理性）が、知らず知らずのうちに培われます。

2. 学習内容と学び方

クラスにより違いはありますが、基本的には教科書に沿って授業を進めてゆきます。ベクトル、数列など、広大な数学な世界を学ぶための、大切な手法を身につけてゆきます。

3. 使用教材と授業の進め方

教科書：『高等学校 数学B』、『高等学校 数学Ⅲ』（数研出版）

問題集：『4step 数Ⅱ+B』、『4step 数Ⅲ』（数研出版）

参考書：クラスにより、違ったものを採用します。

教科書や参考書を利用して授業の予習をし、疑問点をはっきりさせて授業に臨んで下さい。また、授業で出される宿題には、しっかりと取り組んでください。

4. 学習上の留意点

数学の学習では、次の5つのアプローチが大切だと言われています。参考にして下さい。

- ①「手を動かす」…問題の要点を書き並べてみたり、図を書いてみたり、と、まずは手を動かしてみることが大事です。
- ②「毎日解く」…数学においても蓄積の効果は大きいものです。問題を毎日解くことで、確実性とスピード、センスを養うことができます。
- ③「問題の意味は何か」…要は何を求めればいいのか。問題の意味は何か、ひと言で説明できなくてはなりません。
- ④「解けるためには何が分かればいいのか」…解決のために、逆算して「何が分かれば問題が解けるのか」を考えて問題を解きましょう。
- ⑤「説得力ある説明ができるか」…解答を作るに際しては、単に「答えが出ればよい」のではなく、論理的に隙のない答案をつくる訓練をしましょう。

5. テストや評価の方法

定期テストと、平常点（授業への取り組み、確認テスト、宿題）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：数学B（理系）

学 期	月	単 元	考 査	内 容
第 1 学 期	4	第1章 平面上のベクトル	中間 考査	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	5			
	6	期末 考査		
	7			
第 2 学 期	8	第2章 空間のベクトル	中間 考査	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
	9			
	11	期末 考査	簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	12			
第 3 学 期	1	数学Ⅲ	学 年 末 考 査	数Bが終了次第、数Ⅲの学習に入ります。
	2			
	3			

注 この表は、あくまでも目安です。

クラスの状況により進度は、遅くなる場合や、速くなる場合があります。

詳しく知りたい人は、各担当の先生に訊ねてください。

中入生は、早めに進んでいます。（数Ⅲの内容などを参考にしてください。）

理科	地学基礎
----	------

高校2年生文系対象

週2時間

担当：岡崎賢成

1 科目のねらい

地学の学習内容は、大きく捉えれば“宇宙を探る”ことと“地球を探る”こととなります。我々の宇宙の現在の姿とその誕生に遡る過去の歴史を、宇宙から飛んでくる電磁波によって探っていきます。地球については、地層に刻まれている歴史をもとに次第に明らかになってきた地球の姿を探っていきます。

2 学習内容と学び方

高校の選択科目である「地学基礎」を学んでいきます。

学び方は、簡単な予習、授業への集中と授業時間中の内容理解、復習での基本知識の暗記、問題演習が基本となります。

中学の第2分野でも学習した内容と一部重複してその延長線上にあります。週2時間の授業ですので、内容を忘れないためにも必ず復習をするように心がけてください。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「地学基礎」第一学習社

副教材：「ネオパルノート地学基礎」第一学習社、
「セミナー地学基礎」第一学習社

教科書以外に、副教材、問題集、プリント等を使用します。必要に応じて小テスト等も行います。

4 学習上の留意点

授業には主体的に取り組んでください。仮に難しいと感じる時があっても、決してできないと思わず、困った時は積極的に調べたり、質問したりしてください。

授業で扱った内容は、主体的な復習により、確実に自分のものとしていってください。

5 評価の視点・テスト・課題など

定期考査、小テスト、宿題等を加味して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 地学基礎 (文系)

学期	月	単元	内容	考査	着眼点
第1学期	4	1章 宇宙 における地球	宇宙の構成	中間考査 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・高校で初めての「地学」学習にスムーズに入れるよう、全体像の中での学習のポイントがわかるように心掛ける。 ・授業中に自由闊達に意見を言える雰囲気、質問できる雰囲気をつくる。ただし、単なるおしゃべりは慎むこと。 ・放課後の主体的な地学学習の習慣化をできるように、問題集の演習を課題とし、小テストなどを適宜行う。 ・スケールの大きな宇宙がイメージできるように教材を工夫する。
	5		太陽		
	6		太陽系の中の地球		
	7	2章 活動 する地球	地球の姿 火山活動		
第2学期	8	移り変わる 地球	地震	中間考査 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の仕組みや影響について学習し、天変地異と関連づけて、関心の幅を広げられるようにする。 ・岩石の種類や鉱物など単なる暗記で終わることなく、そこから地球の歴史がわかるという不思議さや面白さに気づけるように工夫を凝らす。
	9		地層や岩石と地質構造		
	10		地球環境と生物界の変遷		
	11	大気と海洋	地球の熱収支		
12					
第3学期	1	地球の環境	大気と海洋の運動	学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・大気の運動がわかると実際に天気予報ができるようになることなど、実生活と関連させて興味を持たせるようにする。 ・地球に及ぼす災害と恩恵について、その表裏を知り、災害時の対応策を知ることによって、安心した暮らしができることを学ぶ。
	2		地球環境の科学		
	3		日本の自然環境		

理科 物理基礎

高校2年生 文系・理系生物選択者対象

週2時間

担当：伊藤隆晃

1 科目のねらい

物理「もののことわり」、理（ことわり）とは法則、法のことです。この科目は、様々な自然法則の探究を通して、仏の創られた世界の法則、仏の思いを知っていくための学問であると考えます。

高校物理では、その基礎として必要になる「論理的思考力」「想像力」「計算力」等を高校時代のうちに身につけることをねらいとします。科学的に探究する態度を養いながら、受験科目としては共通テスト攻略をねらいとします。

2 学習内容と学び方

2年次の選択科目「物理基礎」では、力と運動、エネルギー、波動、電気の4分野を中心に学びます。学び方は、簡単な予習、授業への集中と授業時間中の内容理解、復習での基本知識の暗記、問題演習が基本となります。また、肌感覚で物理現象を理解できるよう、実験や実験動画も適宜取り入れます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「高等学校 物理基礎」数研出版

副教材：「プログレス 物理基礎」第一学習社

板書を中心とし、適宜プリントを併用しながら、上記（2. 学習内容と学び方）に則って授業を進めていきます。

4 学習上の留意点

物理は、一つの分野を一度学んだだけでは深い理解は難しい科目です。上記の4分野は「力と運動」を中心として互いに関わりを持っています。単に名称などを覚えてただけでは役に立ちません。理解しようとしている現象がどのようなことか、しっかり把握して、自分でイメージできるようになりましょう。イメージが湧くと、その現象がどのような振る舞いをするのか目に見えるようになります。焦らず、繰り返し丁寧に理解を重ねながら、見えなかったものが見えてくる喜びを味わうように学びましょう。

5 テスト・課題と評価など

定期考査、実力考査、小テストなどを実施し、宿題などを加味して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：物理基礎（文系）

学期	月	単 元	内 容	テスト・範囲	着 眼 点
第 1 学 期	4	運動とエネルギー	運動の表し方 運動の法則 仕事と力学的エネルギー	中間 考 査	力学的分野の基礎力を計算により確実につける。
	5				運動方程式の立て方を理解し、習得する。
	6			仕事の定義を把握する。	
	7			力学的エネルギー保存則を使いこなせるようになる。	
				期末 考 査	
第 2 学 期	9	熱 波 音	熱とエネルギー 波の性質 音	中間 考 査	物質の温度は熱運動によるものであり、熱がエネルギーの一形態であることを理解する。
	10				波の基本的な公式を理解し、身につける。
	11			音の性質を理解する。	
	12			光の性質を理解する。	
				期末 考 査	
第 3 学 期	1	電気 物理学と社会	物質と電気 磁場と交流 エネルギーの利用 物理学が拓く世界	学 年 末 考 査	電気現象は電子が主役であることを認識する。
	2				電流と磁場の間関係を理解し、電磁誘導の現象を理解する。
	3				エネルギー保存の法則を理解する。 身近の様々な場面で物理学が利用されていることを理解する。

<h1>理科</h1>	<h1>物理基礎＋物理</h1>
-------------	------------------

高校2年生 理系物理選択者対象

週5時間

担当：笹尾謙吾、井上貴之、伊藤隆晃

1 授業のねらい

物理「もののことわり」、理（ことわり）とは法則、法のことです。この科目は、様々な自然法則の探究を通して、仏の創られた世界の法則、仏の思いを知っていくための学問であると考えます。

高校物理では、その基礎として必要になる「論理的思考力」「想像力」「計算力」等を高校時代のうちに身につけることをねらいとします。科学的に探究する態度を養いながら、難関理系大学・学部受験の力もつけていきます。

2 学習内容と学び方

高校の選択科目である「物理基礎」および理系選択科目である「物理」を中心に学びます。

学び方は、簡単な予習、授業への集中と授業時間中の内容理解、復習での基本知識の暗記、問題演習が基本となります。また、肌感覚で物理現象を理解できるよう、実験や実験動画も適宜取り入れます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「高等学校 物理基礎」「高等学校 物理」数研出版、

副教材：「セミナー物理基礎＋物理」第一学習社

教科書以外に、資料集と問題集、プリントを使用し、上記（2. 学習内容と学び方）に則って授業を進めて行きます。

4 学習上の留意点

物理は一つの分野を一度学んだだけでは深い理解は難しい科目です。「力学」「熱力学」「波動」「電気」「原子」の五分野は「力学」を基礎として、互いに関連をもっていますので、それを意識しながら二周、三周とくり返し学んでいくことで初めて本当の力が付いてきます。

焦らず、しかし一つ一つ丁寧に理解を積み重ね、見えなかったものが見えてくる喜びを味わうように学びましょう。

5 テスト・課題と評価など

定期考査、実力考査、小テストなどを実施し、宿題などを加味して評価します。

授 業 の 計 画

科目名 物理基礎+物理 (理系)

学期	月	単元	内容	考査	着眼点	
第1学期	4	力と運動	運動の表し方	中間考査 期末考査	力学的分野の基礎力を計算により確実につける。	
	5		力のつり合い			
	6		運動の法則			
			力学的エネルギーの保存			
			剛体			
			7			運動量の保存
			円運動と万有引力			
第2学期	8	熱と気体	熱量保存の法則	中間考査 期末考査	気体のエネルギーを温度・体積・仕事等の関係でとらえられるようにする。	
	9		気体のエネルギーと状態変化			
	10	波	波の伝わり方			
	11		音の伝わり方			
	12		光			
			波の基本的な公式、干渉に関する公式を理解し、身につける。			
			音の性質を理解する。			
光の性質を理解する。						
第3学期	1	電気と磁気	電場	学年末考査	電荷と電場の関係、コンデンサーの仕組みを理解する。	
	2		電流			
	3		オームの法則を理解する。電流と磁界の関係を理解する。			

理科	化学
----	----

高校2年生理系対象

週3時間

担当：桐生大、眞方彩七

1 科目のねらい

化学は、自然界にある未知の物質を発見し、どんな構造や性質を持っているか分析したり、文明の発展に必要な新物質を合成し、新たな可能性を開いていく科学分野の一つです。

高校では、将来、新物質の発見や合成等を通して科学の発展に貢献できるよう、すでに知られているさまざまな物質の基本的性質を学び、基本概念の理解、基本知識の習得を目指します。

この世では、建築物、機械、宇宙船、衣類、薬品など、人類にとって有用な物はすべて物質でできており、その元となる素材の開発や製造は、化学の力にかかっています。

高1で履修した「化学基礎」の知識を基に、続編の「化学」では、純物質の結晶構造や熱化学方程式、気体や希薄溶液の性質、反応速度、化学平衡、無機物質や有機化合物の性質や反応、高分子化合物についてなど、さまざまな代表的物質の性質や反応を学びます。学習を通じて、現代文明の継続的発展および新文明建設への基礎力とすることをねらいとします。

2 学習内容と学び方

高校の理系専門科目である「化学」を中心に学びます。

学び方は、簡単な予習、授業への集中と授業時間中の内容理解、復習での基本知識の暗記、問題演習が基本となります。

化学分野の理解を深めつつ、興味関心を強め、多くの科学的偉人達の如く大きな夢を持ち、努力に努力を重ねる姿勢を身につけ、夢に着実に近づいて行こう。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「高等学校 化学基礎」「高等学校 化学」第一学習社

副教材：「フォトサイエンス化学図録」数研出版 「セミナー化学基礎+化学」第一学習社

教科書以外に、資料集と問題集、プリントを使用します。

化学を心から楽しみ、各々が潜在的な力に気づき、自信をつけ、互いに切磋琢磨しながらさらに実力を磨いていけるようにします。

4 学習上の留意点

授業時間以外でも、常に、身の回りの科学的現象に興味・関心を持って、観察・考察を深めるように努めてください。また、資料集等にも関心をもって目を通すようにしましょう。

授業には積極的に参加し、学習には主体的に取り組みましょう。「なぜ?」「どうして?」は放っておかず、考え、調べ、質問し、積極的解決をはかっていきましょう。

「なぜ?」から「分かった!」に昇華していく瞬間の嬉しい気持ちを大切にしましょう。

そして、分かったら、基礎事項の暗記に取り組みましょう。

基礎事項の暗記と並行して、問題集に取り組み、実力を上げていきましょう。

5 テスト・課題と評価など

定期考査、実力考査などを実施し、実験レポート、宿題などを加味して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：化学（理系）

学 期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	酸化還元反応	酸化と還元、酸化剤と還元剤 金属のイオン化傾向	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化剤と還元剤を上手に組み合わせると化学電池をつくることができる。 ・電源電圧を利用すると、通常では起こりえない酸化還元反応を起こすことができる。これが電気分解である。 ・代表的な結晶格子を学ぶ。 ・水素結合と沸点の関係などを学ぶ。 ・気体の性質や特徴を学び、液体に溶質が溶けてできる溶液の性質を学ぶ。
	5	電池、電気分解 化学結合と結晶	電池、電気分解 単位格子、水素結合		
	6	物質の三態	状態変化 気液平衡と蒸気圧	期 末 考 査	
	7	気体の性質 溶液の性質	気体の状態方程式 理想気体と実在気体 溶解と溶液		
第 2 学 期	8	物質と エネルギー	希薄溶液の性質	中 間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・熱もエネルギーの一種であり、総熱量は保存される。つまり、ヘスの法則が成り立つ。 ・ヘスの法則を用いれば、測定困難な反応熱を計算によって導くことができる。 ・反応物の濃度や活性化エネルギーの大小によって反応速度が変化する理由を学ぶ。 ・密閉系では可逆反応は必ず化学平衡に達する。このとき成立するのが化学平衡の法則である。
	9		コロイド溶液		
	10	反応熱と熱化学方程式 ヘスの法則と結合エネルギー	期 末 考 査		
	11	化学反応の速さ 衝突頻度と活性化エネルギー 反応速度定数			
12	化学平衡	平衡移動の原理 化学平衡の法則、平衡定数 (有機化合物)			
第 3 学 期	1	有機化合物	有機化合物の特徴と構造	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・化学平衡の理解を前提にして、無機物質の性質と反応を学ぶ。
	2	脂肪族化合物	脂肪族炭化水素酸素を 含む脂肪族化合物		
	3	芳香族化合物	芳香族化合物 有機化合物と人間生活		

※週1時間以上補講を行う予定。補講の学習内容は上記計画と一致しないことがあります。

コミュニケーション英語Ⅱ

高校2年生対象

週3時間

担当：松原かりん、上村美智、

1 科目のねらい

高1で築いた基礎力を土台にして、さらに豊富な題材のさまざまな読み物を読んでいきます。単に和訳できればいいというレベルではなく、さまざまな読み方の技法やパラグラフの構造や展開パターンについても学び、速読や精読の力を養います。高2のゴールとしては、いろいろなジャンルの読み物を速く正確に読めることを目指します。併せて、スピーキングやライティングへつなげる力も意識して養います。

2 学習内容と学び方

英語Ⅱの授業は週3時間あります。読み方の技法としてのフレーズ・リーディングやスキミング、スキヤニング等を学び、さらにパラグラフの構造や展開パターンについても学びます。教材の予習復習の仕方については、精読のレッスンではじっくり調べてくる指示を出し、速読のレッスンでは場合によっては予習なしで挑戦してもらいますので、担当教官の指示に従いましょう。文系理系共通の教材を使用し、習熟度別クラス編成を実施します。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「World Trek English CommunicationⅡ」（桐原書店）

副教材：サクセス No.1「大学受験英単熟語集」センター必勝編

UNITE 英語総合問題（数研出版）

Change the World 英語読解問題（いいずな書店）

速読英単語（Z会）必修編

みなさんの学習の進み具合に応じて、臨機応変に授業のやり方を変えますので、担当教官の指示に従ってください。

4 学習上の留意点

個々のセンテンスの構造を的確に見抜く力と、パラグラフ単位で文章全体の構造を把握する力は、一朝一夕で身につくものではありません。しかし、本質的な読解力を身につけると、これからの世界を生き抜いていく一生の財産となります。4技能をバランスよく訓練することを意識し、将来、世界で活躍できる力の基礎をしっかりと養成することに努めましょう。

5 テストや評価の方法

定期考査が年5回、実施されます。定期考査の点数と、平常点（授業への取り組み、小テストへの取り組み、宿題の提出状況等）を総合して評価します。それぞれの単元で「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「関心・意欲・態度」の3観点について評価します。

授 業 の 計 画

科目名 コミュニケーション英語Ⅱ

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	Lesson 1	What Happens in Your Country in April?	中間 考 査	基本文型
	5	Lesson 2	Aquariums – Amazing water worlds		応用文型
	6	Lesson 3	Dear Juliet	期 末 考 査	形式主語（不定詞、that節）
	7	Lesson 4	Nebuta, the Soul of Aomori		助動詞 助動詞＋完了形
第 2 学 期	8	Lesson5	Changing Things, Changing Lives	中 間 考 査	現在完了進行形 現在完了の受け身
	10				Lesson6
	11	Lesson7	The Origin of Halloween		形式目的語
	12	Lesson8	Helping People through Robots	期 末 考 査	関係代名詞 関係副詞
		Lesson9	Snowflake Bentley		分詞構文
	Lesson10	<i>Ukiyoe</i> and the Impressionists	仮定法 特殊構文		
第 3 学 期	1	Change the world	長文読解の基礎力養成 総合力の養成	学 年 末 考 査	総復習
	2				
	3				

英語表現Ⅱ

高校2年生対象
週3時間
担当：皿山 翔、佐藤佳子

1 科目のねらい

情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で発信するための基礎力を養成します。そのために、「英語表現Ⅰ」で習得した文法項目を駆使したり、英語構文を把握して有効にりようしたりできる力を身につけます。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、発展学習として、英語のチャットやプレゼンテーション、ディベート練習も行い、広く海外で活躍できるための基礎力を養成することを目標とします。

2 学習内容と学び方

英語表現Ⅱの授業は週3時間あります。レッスンの進め方については、テーマによって予習を課すものとその場で取り組むものに分けますので、担当教官の指示に従いましょう。まず、文法力の基礎を再確認しつつ、正確な文を使える（書く）力を養います。学習を進めながら、パラグラフライティングの構成、手法を学び、エッセイライティングにチャレンジし、英語で表現する力を身につけましょう。文系・理系共通の教材を使用し、習熟度別クラス編成を実施します。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「EMPOWER English Expression Ⅱ ESSENTIAL COURSE」桐原書店
副教材：「構文ワーク 100」（数研出版）
「アップリフト英文法」（z会出版）
「Next Stage 英文法・語法問題」（桐原書店）他
「システム英作文」（桐原書店）3学期より

みなさんの学習の進み具合に応じて、臨機応変に授業のやり方を変えますので、担当教官の指示に従ってください。

4 学習上の留意点

英語表現と聞けば、「英会話」を連想する人が多いと思いますが、英会話の基礎は英作文であり、正確な英作文を創るためには、英文法のマスターがその前提となります。よって、「英語表現Ⅰ」で習得した英文法をもう一度しっかりと復習しつつ、基本的な英文をたくさん覚えておくことが不可欠になります。自分から英語で積極的に発信する姿勢で、授業に臨んでください。1つ覚えるごとに、世界の人々の救済につながっていくのです。

5 テストや評価の方法

定期考査が年5回、実施されます。定期考査の点数と、平常点（授業への取り組み、小テストへの取り組み、宿題の提出状況等）、課題テストを総合して評価します。それぞれの単元で「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「関心・意欲・態度」の3観点について評価します。

授 業 の 計 画

科目名：英語表現Ⅱ

学期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点				
第 1 学 期	4	アップリフト 英文法 項目別演習	年間を通じて、文法 の復習とリスニング 演習、実践練習	中 間 期 末	高1の文法の復習を行いながら、構文把握 力を養成する。				
	5	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4	時制 文型 助動詞 受動態		時制 文型 助動詞 受動態				
	6	Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	不定詞 動名詞 分詞 比較 名詞・代名詞		不定詞 動名詞 分詞 比較				
	7	Lesson10 Lesson11 Lesson12	関係詞 仮定法 接続詞		関係詞 仮定法 接続詞				
	第 2 学 期	8	Lesson13		前置詞	中 間 期 末	前置詞		
		9	Lesson14		否定		否定		
		10	Lesson15 Lesson16		強調・倒置 挿入・省略		強調・倒置 挿入・省略		
		11	Lesson17 Lesson18 Lesson19		呼応 語順・疑問 動詞の語法		呼応 語順・疑問 動詞の語法		
		12	Lesson20 Lesson21 Lesson22 Lesson23 Lesson24 Lesson25 Lesson26 Lesson27		形容詞・副詞の語法 数量表現 動詞の熟語（1） 動詞の熟語（2） 形容詞・副詞の熟語 名詞・前置詞の熟語 多義語 会話表現		形容詞・副詞の語法 数量表現 動詞の熟語（1） 動詞の熟語（2） 形容詞・副詞の熟語 名詞・前置詞の熟語 多義語 会話表現		
		第 3 学 期	1		システム英作 文		Basic 例文 およびStandard Lesson 1～Lesson15	学 年 末	構文の把握と和文英訳の演習 無生物主語、時制、助動詞、関係代名詞など
			2						
			3						

1 科目のねらい

体育や保健の学習を通して、自己鍛練の大切さや共に生きている仲間の大切さを学んでいきます。

高校1年生で学んだことを生かし、より自主的で計画的な内容に取り組む中で、伸び伸びとさわやかで明るく豊かに行動できる基礎体力と健全な心を養うことが目的です。そのプロセスの中で「愛・知・反省・発展」の実践力が高まっていきます。

必ず心も体も格段に成長し、より計画的に運動に親しむ資質や能力の身についた高校2年生に成長していきます。

2 学習内容と学び方

年度当初に、体力テストを実施します。自分の得意なところとがんばらなくてはならないところを自分なりに明確にしてから1年間をスタートします。体育の必要性を理論として学習し、自主的な活動計画づくりの大切さを身に付けていく中で、高校1年生以上により自主自立の体育を実践していきます。

毎時間、「ウォーミングアップ体操」をして基礎的な動きを身に付けていきながら、応用・発展的な動きに少しずつ移行し、自分なりの計画に基づいて練習を重ねます。受験勉強に耐えられる体力と気力、精神力はもちろんです。物事を推進していく時に大切な計画性も身につきます。

授業の中には必ず「愛・知・反省・発展」の力を高める場面が含まれるのも大きな特徴です。

体育の授業を通して、挑戦・創造・貢献の建学の精神に富んだ生徒に近づけていきます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書： 大修館書店 現代保健体育改訂版

4 学習上の留意点

高校保健体育を楽しむには次の8点が必要です。

- ① 体育の動きや技をよく知ること
- ② 自分がどのような体力をしているかをしっかりと把握すること
- ③ どのようになりたいのかをイメージすること
- ④ 仲間を応援したり励ましたりすること
- ⑤ 仲間ができたことを自分ができたかのように祝福すること
- ⑥ 多少きつい運動でも前向きにがんばること
- ⑦ ケガをするまでがんばらないこと
- ⑧ 練習計画を自分で立てて、実践すること

5 テストや評価の方法

体育

関心・意欲、思考・判断、技能、知識・理解の4観点で、運動の特性に応じた基準ごとの5段階評価を点数化し、その総合点で評価します。

保健

期末考査の点数と、平常点（授業への取り組みや態度、技能）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：保健体育（男子）

学 期	月	単 元	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	体力テスト 体づくり 体育理論 保健 ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技能の構造と運動の学び方 ・思春期と健康 ・フォークダンス ・短距離走・リレー ・長距離走・走り高跳び ・性意識と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・バスケットボール ・サッカー ・妊娠・出産と健康 ・高齢者のための社会的とりくみ 	中間 考 査 期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力を明確に把握し、これからのイメージをもつ。 ・運動技能や学び方の知識を深める。 ・思春期の体の特徴について学ぶ。 ・互いに教え合いながら踊りを身につける ・技能を上達させ、記録の向上を目指す。 ・自分に適したフォームで走る。はさみ跳びやベリーロールで跳ぶことができる。 ・異性の心や体を的確に理解し、異性を尊重する態度を身につける。 ・集団的技能面で自己の役割を理解し、ゲームで生かす。 ・妊娠・出産期の健康について学ぶ。 ・高齢社会に対応した保健・医療・福祉について学ぶ。
	5	陸上競技 保健 球技（選択制）			
	6 7	保健			
第 2 学 期	8	水泳	<ul style="list-style-type: none"> ・クロール・平泳ぎ ・背泳ぎ・バタフライ ・保健制度と保健サービス ・テニス・ソフトボール ・バレーボール・剣道 ・医療機関と医療サービス ・長距離走 ・大気・水質・土壌汚染と健康 ・ハンドボール・バドミントン ・空手 ・健康被害の防止と環境対策 	中 間 考 査 期 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・個人メドレーのタイムを縮めることができるようにし、仲間と楽しく活動する。 ・保健サービスの内容とその活用を学ぶ ・自己に適した目標を設定し、互いに協力しながら計画的に練習する。 ・適切な医療サービスについて学ぶ。 ・マラソン記録会を通して、長距離走の力を高め忍耐力を養う。 ・大気・水質・土壌汚染が健康に影響をおよぼすことについて学ぶ。 ・集団的技能面で自己の役割を理解し、ゲームで生かす。 ・環境汚染の防止・改善への対策を学ぶ。
	9	保健 球技・武道 （選択制）			
	10	保健 陸上競技 保健			
	11	球技・武道 （選択制） 保健			
第 3 学 期	1	保健	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・食品衛生活動のしくみと働き ・サッカー・バスケットボール ・バレーボール・ダンス ・労働災害・職業病と健康 	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・食品衛生活動の問題点と対策について学ぶ。 ・自己の能力に応じた技を習得し改善したり新たに加えたりして技を豊かにする。 ・労働災害の防止対策等について学ぶ。
	2	球技・ダンス （選択制） 保健			
	3	保健			

授 業 の 計 画

科目名：保健体育（女子）

学 期	月	領 域	内 容	考 査	着 眼 点
第 1 学 期	4	体力テスト 体づくり 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技能の構造と運動の学び方 ・思春期と健康 ・フォークダンス ・短距離走・リレー ・ハードル走・走り幅跳び ・性意識と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・クロール・平泳ぎ ・背泳ぎ・バタフライ ・妊娠・出産と健康 ・高齢者のための社会的と りくみ 	中間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力を明確に把握し、これからのイメージをもつ。 ・運動技能や学び方の知識を深める。 ・思春期の体の特徴について学ぶ。 ・互いに教え合いながら踊りを身につける ・基本的なランニングフォームとバトンパスを身につける。 ・自分に適したインターバルやフォームを身につける。そり跳びなどで跳ぶことができる。 ・異性の心や体を的確に理解し、異性を尊重する態度を身につける。 ・個人メドレーのタイムを縮めることができるようにし、仲間と楽しく活動する。 ・妊娠・出産期の健康について学ぶ。 ・高齢社会に対応した保健・医療・福祉について学ぶ。
	5	保健 ダンス 陸上競技			
	6	保健 水泳			
	7	保健		期 末 考 査	
第 2 学 期	9	球技（選択制）	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・サッカー ・保健制度と保健サービス ・医療機関と医療サービス ・テニス・ソフトボール ・バレーボール・剣道 ・大気・水質・土壤汚染と健 康 長距離走 ・健康被害の防止と環境対 策 ・ハンドボール・バドミン トン ・空手 	中間 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを楽しむための練習やゲームに取り組む。 ・適切な医療サービスについて学ぶ。 ・自己に適した目標を設定し、互いに協力しながら計画的に練習する。 ・適切な医療サービスについて学ぶ。 ・マラソン記録会を通して、長距離走の力を高め忍耐力を養う。 ・大気・水質・土壤汚染が健康に影響をおよぼすことについて学ぶ。 ・段階に応じた作戦を立て、防御から攻撃への連携を生かしたゲームができる。 ・環境汚染の防止・改善への対策を学ぶ。
	10	保健 球技・武道 （選択制）			
	11	陸上競技 保健			
	12	球技・武道 （選択制） 保健			
第 3 学 期	1	保健	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・食品衛生活動のしくみと働き ・サッカー・バスケットボ ール ・バレーボール・ダンス ・労働災害・職業病と健康 	学 年 末 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・食品衛生活動の問題点と対策について学ぶ。 ・自己の能力に応じた技を習得し改善したり新たに加えたりして技を豊かにする。 ・労働災害の防止対策等について学ぶ。
	2	球技・ダンス （選択制）			
	3	保健			

1 科目のねらい

独唱・合唱やさまざまな楽器の演奏、音楽活動への積極的参加によって、自ら表現することの大切さを学びます。また、仲間とアンサンブルをすることで協調性を育んだり、作品を創り上げたりする喜びと感動を共有します。各人の個性を尊重して、一人一人の音楽への興味と能力を向上させることをねらいとします。

また、鑑賞を通して、過去の偉人たちによって生み出された芸術作品に触れます。さらに、過去から現在までの世界のあらゆるジャンルのよい音楽に接することにより、音楽に対する幅広い知識や感性を磨いていきます。音楽や他の芸術が果たす役割を理解してその可能性を追求し、新時代に新たな芸術的価値を創造していくことのできる個性を育てます。

2 学習内容と学び方

教科書で取り上げている楽曲、日本や世界の国のさまざまな音楽を学びます。独唱や合唱、また楽器の演奏、創作活動などを通して、一人一人が積極的に参加する心を大切にします。音楽や映画などの鑑賞を通じて、クリエイティブな視点で音楽を感受して自らの表現につなげていきます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書「MOUSA」（教育芸術社）のほか、独唱・合唱曲集からの楽譜やプリントを用意します。鑑賞教材としては、従来の映像教材のほか、映画やテレビの音楽番組、また新しい教材などさまざまなものを効果的に使います。教養としての音楽と、楽しさや充実感を得られるものをバランスよく取り入れて授業を展開します。また、発表会を設けることで、お互いの個性や音楽性を認め合う場とします。

4 学習上の留意点

授業では、仲間と共に音楽を奏でることから、お互いの長所を認め合うことを大切にしていきましょう。合唱や合奏の実技においては、授業中の積極的参加はもとより、時間外の活動もどんどん行なうとよいでしょう。鑑賞の授業では、作品や作曲家に対して興味をもち、感じ取ったことを積極的に発表し合うことで、さまざまな聴き方を認め合い、高めあっていきましょう。

音楽の授業を通して、自分の新たな個性を発見し、自分らしい表現を磨いていくことも大切です。常に向上を求め、感性を研ぎ澄まして学習に取り組んでください。

5 テストや評価の方法

実技テスト、ワークシート、授業への取り組み、自由発表などの総合点で評価します。

授 業 の 計 画

科目名：音楽I

学期	月	単 元	内 容	テスト・範囲	着 眼 点
第 1 学 期	4	音楽視野の 拡大	愛唱歌、ポピュラーソ ング 発声法 ソルフェージュ	器楽実技テ スト	曲種に応じたいろいろな発声の方法について学び、曲を歌う。 楽譜の正しい読み方や書き方を身に付ける。
	5	リコーダー アンサンブルの楽しみ	楽典 ペツォールト「メヌエ ット」		曲想と音楽の構造や文化的・歴史的 背景との関わりを理解し、他者 との調和を意識する。
	6	合唱の楽し み	リコーダーをつかって 簡単なメロディーを創 作する		音の重なりやリズム同士の絡み合 いなどを工夫して、カノンをつく る。
	7		混声4部合唱曲		ハーモニーを感じ取りながら合唱 する 文化祭での合唱コンクールで発表 する
第 2 学 期	9	ギターの二 重奏で表現 しよう	「グリーンスリーブス 」	歌唱 実技テスト	ギターの音色や奏法の特徴を生か し、表現を工夫して演奏する
	10				
	11	能や謡に親 しもう	謡に親しもう「高砂」 能「道成寺」	発表会	謡の発声や歌唱法について学習し 、表現を工夫して謡う 能の表現の特徴や文化的・歴史的 背景を理解し、そのよさや美しさ などを味わって鑑賞する
12	世界の諸民 族の音楽に 親しもう	世界の諸民族の音楽	それぞれの国の音楽の共通点や相 違点に着目し、多様な表現による 音楽美について感想を述べ合う		
第 3 学 期	1	サンバやジ ャズに親し もう	Brazil 枯葉	演奏発表	ジャズの文化的・歴史的な背景や 演奏者による表現の特徴を理解す る 音感を養い、音楽鑑賞をするとき の新しい視点を身に付ける。
	2	ヴァイオリ ンに親しも う	音の出し方を覚え、簡 単な楽曲を演奏する。		
	3	器楽アンサ ンプルの楽し み	キーボード、ギター等 の伴奏で歌う、あるいは演奏する。	アンサンブル発表会	各パートの役割や音の重なり方な どを感じ取るとともに、全体の調 和を意識しながら表現するために 必要な技術を身に付け、創造的に 表現する

1 科目のねらい

この世界と大自然の流転の中には、ダイナミックな美とエネルギーが満ちあふれています。自然の森羅万象の中に、文学や芸術作品の中に、美しい言葉、美しい行為、日常の中にも美しさや情緒があります。その美しさを感じ性の面から感得する力、美を見つけ出すまなざしを獲得し、健全な精神と感性の向上を目指します。また、美術の授業では人間のイメージを描く力を開発し、創造性を限りなく解放することを目標としています。幅広く個性豊かな表現力を身に付けて、普遍的価値を表現し、自分の人生そのものを美しくすばらしいものにしてゆきましょう。

2 学習内容と学び方

「鑑賞」の学習と「表現」の学習により、見る力とつくる力を互いに高めます。

「鑑賞」においては、古代から現代までの文化遺産や東西の多様な芸術作品を見て知ること、文明文化の変遷を感性から味わいます。また、友人の作品からも、多様な個性を感じ取り、他人と共感する感性を養います。

「表現」においては、多様な表現方法（スケッチ、デッサン、絵画、彫刻、コンピュータ）を経験し、普遍的な価値につながるテーマの元に、それらを組み合わせ創意工夫して表現し、表現の喜びを味わい、創造の感性を養います。

3 使用教材と授業の進め方

教科書： 「美術1」（光村図書）、美術書、画集、詩集、デザイン関連書籍など
制作のポイント

- ① 資料を参考として自由なイメージとアイデアをなるべく多く出します。
- ② テーマの元にイメージを絞り込み、組み合わせます。
- ③ 技法を活用し、作品を完成させ、達成感を味わいます。
- ④ 発表し、他人からの評価を得ます。

4 学習上の留意点

美術の学習は、美という観点から、自分と世界を深く知り、美的感性を養おうとするものです。表現で大切なものは、手際よく描く手先の器用さではありません。大切なのは、感動する素直な心です。絵を描くことを特別なことと思わず、感動する喜びを大事にして、温かく、人間らしい感性を養い、人生を美しく、力強く創造していきましょう。

5 テストや評価の方法

作品制作（発想、構成、完成度、センス、伝達力等）と平常点（鑑賞レポート、意欲、態度等）を総合して評価します。

授 業 の 計 画

科目名：美術 I

学 期	月	単 元	内 容	テスト・範囲	着 眼 点
第 1 学 期	4	イラストレーション	イラストレーション制作 多様なイラストの理解 アイデアスケッチ 組み合わせによる創造 下図の取り込み デジタル加工 描写と色面デザイン トレース 彩色 作品鑑賞 世界の文化遺産	作品提出 レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストの多様な魅力について考察し、理解する。 ・二つ以上のを組み合わせることで物語性が出ることを理解する。 ・独創的な世界観やインパクトのある表現に挑戦する。 ・フィルター効果や色調補正などのデジタル加工を活用する。 ・友人の作品を鑑賞して個性の多様さを感じ取る。 ・国や地域の文化と美の多様性を感じとる。
	5				
	6				
	7				
第 2 学 期	8	真理伝道まんが	真理伝道まんがの制作 現代の社会問題の考察 伝えたい情報の選定 アイデアスケッチ キャッチコピー ペン入れ デジタル処理 文字入力と印刷 製本 作品鑑賞 日本の文化遺産	作品提出 レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題の原因と現状、解決への知恵について考察する。 ・見える絵で情報を伝達することが効果的な啓発となることを理解する。 ・効果的な構成を考える。 ・スキャナーによる取り込みでデジタル画像にする。 ・台詞や題字など文字を入力する。 ・全員分を一冊の雑誌に製本する。 ・仏教とのつながりと精神文化について理解する。
	9				
	10				
	11				
第 3 学 期	1	蒔絵・螺鈿の制作	蒔絵・螺鈿作品の制作 日本の黄金芸術 琳派作品の鑑賞 蒔絵と沈金の技法 螺鈿細工の技法 下図のデザイン トレース 蒔絵・螺鈿制作 鑑賞	作品提出	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統工芸、蒔絵・螺鈿細工を通して日本に伝わる黄金の芸術のデザイン性と素晴らしさを理解する。 ・琳派がヨーロッパの美術に与えた影響を理解しながら作品を鑑賞する。 ・蒔絵・沈金・螺鈿細工の技法を理解し習得する。 ・黒と金、螺鈿の面積比のバランスに留意して制作する。
	2				
	3				

1 科目のねらい

「自立した生活」を目指す

家庭科の学習では、実習や実験、製作を通して、自分自身で生活を創っていくために必要な知識や技術を身につけ、日々生じてくる生活問題を解決するための見方や考え方を学びます。そして、まわりの人々との交流を通して相手の立場を理解し、助け合いながら生活していくことを目指します。

2 学習内容と学び方

家庭科の学習で大切なことは、「自分の力で挑戦する」ことです。実習を通して達成した時の感動、成徳感、成功体験そのものです。また、失敗からの学びも実生活に必ず役に立ちます。一つ一つの実習・実験等には、臆せずに挑戦してください。

具体的には、調理実習・被服実習を通し、基本的な技術を身につけ、将来活用するための実践力をつけます。また、一人暮らしのシミュレーションを通して、大学生活や社会人になった時にも役立つ消費生活の基本的な知識や技術を学びます。

3 使用教材と授業の進め方

教科書：「家庭基礎」～ともに生きる明日をつくる～（教育図書）

4 学習上の留意点

- (1) 楽しい学習にするために、グループ学習では、お互いに協力しあい助け合いながら学びましょう。
- (2) 技術的な学習を身につけるためには、生活の中で実践していくことが大切です。
- (3) 生活を振り返る時には、自分自身をしっかりと見つめましょう。
- (4) 作品の製作を進めたいときには、家庭科室をどんどん活用しましょう。
- (5) 実習の際、刃物類、ガス、電気機器などを使用するため、安全に充分留意して活動しましょう。

5 テストや評価の方法

- (1) 関心・意欲・態度
作業や実習計画案への積極性、授業への取り組み方、レポートや実践記録、自己評価などで評価します。
- (2) 思考・判断力
レポート、ワークシートなどで評価します。
- (3) 技術
作品の製作や実習を通して基本的な技術が身についたか、学習過程や作品、実習レポートなどで評価します。
- (4) 知識・理解
ワークシート、レポートなどで評価します。

授 業 の 計 画

科目名 家庭基礎

学 期	月	単 元	内 容	テスト・範囲	着 眼 点
第 1 学 期	4 5	ガイダンス 食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事と健康 ・ 栄養と食品 ・ 食品の選択と取り扱い ・ 食事の計画と実習 ～和食～		<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素とそれらを含む食品、食品の選び方、食品の衛生的な取り扱いや管理について理解する。 ・ 実習を通して、基本的な調理技術を習得し、食事のマナーを理解する。また、栄養素の働きを理解し、バランスよく食べることの大切さを知る。
	6 7	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身の特徴 ・ ボランティア体験 (高齢者施設)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身の特徴や健康、生活について理解する。 ・ ボランティア体験を通し、介護について考える。また、今後の日本社会の在り方について考える。
第 2 学 期	8 9 10	保育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児の心身の発達 ・ 子どもとの関わり方 ・ 幼稚園実習 ・ 実習のまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児の能力を知り、身体と心の発達について理解する。 ・ 親や周りの大人からの関わりが重要であることを知り、保育者としての関わりを理解する。 ・ 実習を通し、子どもや親への理解を深める。
	11	住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らしのシミュレーション① ・ 部屋の探し方 ・ 健康、安全な部屋 ・ 部屋作り実習 生活に必要な家具や家電等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 住生活と健康、安全に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・ 部屋探しや一人暮らしに必要な家具、家電を知り、将来の生活設計に役立てる。 ・ 学習内容を寮の部屋作りに生かす。
	12	伝統料理	おせち料理		<ul style="list-style-type: none"> ・ おせち料理の意味を理解し、簡単な調理実習を通して、伝統料理にふれる。
第 3 学 期	1	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコクッキング ・ 食事の計画と実習 ～お弁当作り～		<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を通して、基本的な調理技術を習得し、栄養バランスのよい献立の大切さを理解する。 ・ 簡単にできる実習、食材を使い切る実習などを通して、料理の楽しさを味わわせる。 ・ お弁当の基本的な知識を知り、調理実習で体験する。
	2 3	衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ T P O (冠婚葬祭のマナー) ・ コーディネートの基本 ・ ほころび直し、衣服の手入れ ・ ミシンの使い方 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活と衣服との関わり、人に与える影響について考え、普段の服装を見直す。 ・ 衣服の機能、材料など基本的な知識を理解し、衣服選びや手入れに応用する。 ・ 実習を通し、ミシンやアイロンの基本的な使い方、裁縫に慣れる。

探究創造	探究創造 V	高校2年生対象 週1時間 担当：高校2年学年団教員
------	--------	---------------------------------

1 科目のねらい

テーマ：自分に何ができるか～将来の自分の専門分野を意識した
探究創造

高校2年生では、高校1年生で探究した「未来に目を広げる」を発展させ、「自分に何ができるか」をテーマに、将来の自分の専門分野を意識したテーマを設定し、人類の未来に貢献するための探究活動を実施します。

テーマに関する調査や課題の明確化と、問題解決を通じた新価値の創造に向けて、探究創造活動を実施します。最後に2学期中盤の探究創造発表会で、自分の成果を発表。

その後は、各自のテーマを深め、新価値創造による人生の使命を果たすために最も適した大学を選び、その合格に向けての受験勉強に入っていきます。

2 学習内容と学び方

○課題（テーマ）設定（1人1課題）

・高校1年生で探究したことを踏まえ、各個人が、将来の専門分野も意識し、興味・関心のあるテーマから、個人課題（テーマ）を絞り込みます。

・課題（テーマ）に関する文献・情報を収集します。

・課題は自身の志につながる内容とします。

○探究創造活動

・パワーポイントと発表原稿を作成します。

○成果発表

・10月頃に代表者選抜、11月頃に全員が発表を行います。

3 使用教材と授業の進め方

○使用教材 テーマに必要な文献・資料

○人々の幸福に貢献するために自分が探究したい課題を、各個人が設定し、各々が探究活動を実施します。

4 学習上の留意点

積極的に取り組むことで、人類の課題を解決する具体的な方法論が分かります。

5 テストや評価の方法

評価の資料は、①報告書、パワーポイント、発表原稿 ②学習態度、③自己評価及び相互評価の総合評価です。

授 業 の 計 画

科目名 探究創造V

学期	月	単 元	内 容	テスト・範囲	着 眼 点
第 1 学 期	4	オリエンテーション 探究活動	各自の個人探究 課題設定 情報収集(探究活動) 整理・分析 まとめ・表現の4観点に よる活動	ワークシート 取組姿勢 1学期のまとめ (発表原稿等)	・展開目標、探究計画を明確にし、 探究活動に入る。
	5	課題の確認 情報収集			
	6	整理・分析 まとめ			
	7				
第 2 学 期	8	スライド作成	探究発表会用資料作成	発表準備	・発表資料の作成 ・発表原稿の作成
	9		グループ選抜	発表内容	
	10	発表 推敲	・探究発表会発表 ・発表の反省	発表内容・評価票	・探究成果が自身の志につながっている か。 ・探究活動を振り返り、整理する。
	11	探究発表準備 探究発表会 振り返り		ポートフォリオの 内容	
12	ポートフォリオ 作成				
第 3 学 期	1	未来に向けた 学習	・未来に向けた学習		・探究活動での学びを深め、自身の進路 に向けた学習をする。
	2				
	3				